

2020年11月25日

長野県感染対策研究会  
代表世話人 本田孝行  
長野県臨床検査技師会 感染対策委員会  
担当者 征矢佳輔

信州インフェクションコントロール・サーベイランスシステム(SICSS)  
による長野県各地区の耐性菌分離状況についての報告  
～2020年10月データについての報告～  
(データ集計日：2020年11月25日 集計対象施設数：59施設)

2020年10月のVISA、VRE、多剤耐性アシネトバクターの分離はありませんでした。上記に示す薬剤耐性菌は感染対策上、非常に重要な耐性菌です。疑わしい株が分離された場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

<MRSAの分離状況について>

長野県全体の分離率は6.92%でした。JANISでの全国の実分離率は6.47%（2019年年報）であり、全国と比較し分離率がやや高い状況です。東信地区で認められていた分離率の増加はなくなり、他地区に比べて低値へ転じました。その他の地区では前月と同程度の分離率となっています。

<多剤耐性緑膿菌の分離状況について>

前月は北信地区で1例分離されていましたが、10月の長野県全体の分離率は0.00%で、1例も分離はありませんでした。JANISでの全国の実分離率は0.04%（2019年年報）です。なお、1例でも分離が認められたご施設には、感染対策ご担当者様宛に別途メールにてご連絡申し上げております。

<第三代セファロスポリン耐性大腸菌の分離状況について>

長野県全体の分離率は3.06%でした。東信地区では前月に引き続き分離率が減少し、北信・南信地区でもやや低下しています。その一方で中信地区では増加傾向が継続しています。JANISでの全国の実分離率は3.37%（2019年年報）でした。JANISで2015年集計分より用いられている第三代セファロスポリン耐性大腸菌の判定基準よりも、SICSSでの判定基準の方が厳しく設けられているため、これらのデータは一概に比較はできません。なお、同一病棟または診療科から3例以上分離されているご施設には、感染対策ご担当者様宛に別途メールにてご連絡申し上げます。

耐性菌検出検査やSICSSデータ等につきまして、ご不明な点などございましたら下記担当者までお問合せください。

**【SICSSのデータを用いた学術活動について】**

SICSSのデータを用いて学術活動（学会発表や論文執筆など）を行う際には、必ず下記担当者までご相談下さい。また、学術活動の成果物の提出にもご協力をお願いいたします。

問い合わせ先  
信州大学医学部附属病院 臨床検査部 堀内 一樹  
TEL; 0263-37-3493、 e-mail; hori9000@shinshu-u.ac.jp